

令和3年度 江戸川区立葛西第三中学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	よく学び、よく考える自主性のある中学生（自発） 心身共に健康で礼儀正しい中学生（礼儀） 規律と責任を重んじ、よく働く中学生（責任）	目指す学校像	1. 生徒が自ら考え、主体的に学び、確かな学力を身につけさせる学校 2. 生徒の自尊感情を育むとともに、何事にも立ち向かっていく強い意志を持たせる学校 3. 生徒一人一人に充実感・満足感を体感させ、何事にも率先して自主的・主体的に活動できる学校
		目指す生徒像	1. 自分で考え、主体的に学び、判断し、自ら率先して行動できる生徒 2. 心身共に健康で何事にも前向きに取り組み、輝いている生徒
		目指す教師像	1. 豊かな情操を持ち、表現力豊かで社会性のある生徒 2. 共に汗を流す教師(共育) 3. 共に汗を流す教師(協働) 3. 自らを高める教師(研鑽)
前年度までの学校経営上の成果と課題		＜成果＞教員一人一人が自己研鑽に努め、互いに切磋琢磨しつつ、課題の解決に取り組んだ。教科部会を充実させ、指導内容や指導方法を共有し合い、授業力向上に努めた。生徒の学力向上に向けて授業や学習・補習教室を充実させた。学校行事では生徒の主体性を尊重し、生徒が自ら進んで取り組む教育活動を実践した。部活動では顧問の粘り強い指導を通して、技能の向上だけでなく、個に応じた指導を行い、心身共に健全な生徒の育成に取り組んだ。 ＜課題＞道徳授業・特別支援教育の充実・ICT機器の有効活用・3観点の評価・評定の方法を中心に校内研修を行い、新学習指導要領の全面实施を実現する。	

教育委員会 重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた 改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・全国学力調査の結果から生徒の苦手分野を把握し、克服に向けて取り組む。 ・理系・文系・実技系で研修を行い、教科間で課題を検討する。	・単元ごとの小テストの実施により基礎学力の定着を図り、より一層の学力向上に向けて支援する。 ・年2回の研究授業・研修会を実施し、指導・評価方法を工夫・改善する。	A	A	・各教科において計画的に小テストや単元テスト、コンテストを実施し、基礎・基本的な事項について学力が定着した。 ・校内研修会を3分野で実施し、指導の方法、ICTの活用方法等研修を深めた。	A	コロナ禍により、行事は中止、縮小となったが、学習活動は基礎・基本の確実な定着や、学力の向上が図られていると判断する。	一人一台端末の効果的な活用や、補習指導を充実させ、引き続き生徒の苦手分野を克服する取組を行う。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実（読書科ノート）の活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等） ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・朝の読書科の取組を中心に読書をとおりて探究心を養い、探究活動を推進する。 ・学校図書館を整備し、授業、補習で活用していく。	・ビブリオバトルを全学年で実施する。 ・学校図書館司書と連携を取り、月1回図書館の整備を行う。	A	A	・ビブリオバトルを国語科の取組と連携させ、資料の収集や記録の取り方、発表を工夫し、さらに探求心を深めることができた。 ・学校図書館の環境を改善し、調べ学習や探究学習など、授業や放課後の補習等で積極的に活用できるようにしていく。	A	読書推進がなされていて、読書や本に興味をもつことが増えた。読書活動を充実させることで、文章力や、読み取る力をつけてほしい。	学校図書館を効果的に活用し、より一層、読書科の取組を活性化させ、調べ学習や表現活動、探究活動を深めていく。
	体力の向上	・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・補充運動を実施する。 ・部活動の活性化を図る。	・保健体育の授業の始めに補充運動を取り入れる。 ・部活動において種目に応じた体力づくりを行う。	A	A	・コロナ禍で活動が制限されたが、保健体育の授業では補充運動を計画的に実施した。 ・部活動に生徒自ら主体的に取り組む、活性化は継続できた。	A	生徒は運動に意欲的に取り組んでいる。日常的に家庭等で取り組める運動を推奨している。	授業の活動と連携して、積極的に家庭等で取り組める運動を推奨していく。
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	・ボランティア活動や奉仕活動を計画、実施する。	・校内でのボランティア活動を学期に1回計画的に実施する。また、地域のボランティア活動を紹介し、参加を促す。	B	B	・保健委員会の消毒作業や整美委員会の清掃活動、工夫した大掃除の取組等、コロナ感染防止への対応は適宜行うことができた。	B	地域ボランティアなど従来の取組はできなかったが、校内でのボランティア活動や奉仕活動はよくやっている。	地域に貢献できる取組やSDGsの推進を実践していく。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・ALTを有効に活用した授業を実施する。	・ALTの授業でアクティビティを毎回取り入れ、表現力の向上を図る。	A	A	ALTの授業を通して生徒が英語で話す機会が増え、自信につながっている。	A	生徒がALTとの授業を楽しみにすることで関心が高まり、学習活動に意欲的に取り組んでいる。	ALTを活用した英語教育や海外姉妹校との交流を一層推進する。
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・生徒の主体性を生かした学校行事や学級組織作りを実施する。 ・関係諸機関との連携を強化する。	・すべての生徒が意欲的に取り組めるように学校行事や学級運営の内容を検討する。年に2回Hyper-QUを実施し、結果や傾向を活動に活かしていく。 ・不登校傾向の生徒にはチルドレンサポートチームとの連携を図り、長期化を防ぐ。	B	B	・生徒の様子について観察をこまめに行い、大きな問題は起きなかった。Hyper-QUを実施し、結果を授業方法や学級運営に活かした。 ・家庭との連携を取ってはいたが、不登校生徒に効果的に登校を促すことを、来年度さらに継続していく。	B	家庭との連携を密に取り、生徒一人一人の対応を丁寧に行っている。子どもの状況について、担任の先生を中心として学校と相談することができているが、学校に登校することがなかなか難しい。	いじめ・不登校を未然に防ぐため、相談しやすい、風通しの良い学校を作り、問題の早期発見・早期解決を実践していく。
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・巡回指導教員及び巡回指導心理士との連携を強化する。 ・授業での提示の方法を工夫する。 ・不登校生徒への支援。 ・学年通信等の送付。	・校内委員会を月1回開催し、巡回指導教員と情報共有を図る。巡回指導心理士からの助言を特別支援教育に生かす。 ・若手教員を中心とした研修を学期に1回実施。 ・巡回指導教員との月1回の使用状況の確認。 ・学期に1回学年通信の送付。	A	A	・校内委員会での情報交換を基に心理士から有効な助言を受け、その時期の状況や実施に応じて、手立てを確認し、個別の指導を充実させた。 ・特別支援が必要な生徒や不登校生徒に関してSCや巡回指導教員、外部機関との連携を図った。	A	特別支援教育や個に応じた指導は充実している。 週1回の特別支援教室にも意欲的に取り組み、巡回指導教員や、特別支援教育担当の教員と相談しやすい環境にある。	さらに特別支援教育や校内委員会、研修会の充実を図る。 スクールソーシャルワーカー（SSW）の活用や外部機関との連携をより一層深めていく。
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・ICTに関する校内研修を年3回実施する。 ・ICTアシスタントの訪問を有効活用し、ICTに関する基本的な技能の習得を図る。	・全教員がICT機器を活用した授業を年間5回実施し、その課題に関して教員間で研修を行う。	A	A	・ラインズと綿密な打合せを行い、計画通りに校内研修会を実施し、課題を解決した。 ・ICT機器を活用する教員が増え、活用事例について全体で研修会を行い、教員間で共有した。	A	生徒の授業評価から、分かりやすい授業を行っているという評価が多かった。 ICTの学習活動における効果的な活用を、今後も充実させていくことが必要である。	より効果的なICT機器の活用方法を考察し、教員の授業力の向上を図る。